

好きこそものの上手なれ

回胴倒錯者

- PACHISLO FREAK -

成長

コンドルのおかげで生活は潤い、貧乏学生から一変、小金持ち学生になっていた。暇ができれば旅行三昧、そして衝動買い、食事といえば、焼肉、寿司…。今となつては全くバカなことをしていたものだ、とつくづく思う。コンドルの攻略法も世間に知れ渡つてはいたが、以外にも、目押しのできない人も結構好んで打つていた。おかげで設定を下げられずじんだのだが、目押しのできない人たちは負けることが多かった。それでも人気があったのは、秀逸なリーチ目等、攻略法以外にも魅力がたくさんあったからだ。余談だが、この時代は店員さんの目押しサービスがなかったため、目押しを頼まれることが非常に多かった。お客さん同士の目押しもNGな店も結構あった。そしてそのお礼としてほとんどの方から缶ジュースをもらつたりした。目押しの度にジュース1本くれる人、なぜか羊羹をくれる人、不思議なことに夏みかんをくれる人、メダルをこっそりくれる人、そしてリーチ目をくれる人…。いろんなものをいただいた記憶が残っている。ただ目押しをして7を並べてあげただけなのに、それが会話を生み、笑顔を生み、なんともいえないほんわか空気を生んでいた。

挫折

コンドルで生活して1年以上が過ぎ去つていた。さすがにこのころになると、設定状況も渋めになってきていたがそれでも絶大な人気は衰えず、常に青い7を上段に狙う若者の姿がどのホールでも当たり前前の光景になっていた。もちろん私もその中の一人であり、目押し力、知識、技術、すべてにおいて完璧だと



ず上段を基準に押す。しかしスベる。そしてジャックイン。2回に1回は失敗していた。失敗するから最初からリプレイハズシを行う、そしてバンクする。あまりの下手さで情けなさで狼狽し、そして腹立たしかり上段にBARをビタ押し。毎回毎回気を抜かずビタ押し。その成果か、後半にはBIG中のリプレイハズシも失敗はなくなり減り、8割程度は成功していた。これはなかなか骨のある機種が出たもんだ。そしてしばらくコイツで食えそうだ！極めればかなり勝てる！そう確信し帰路についたのだ。

家に到着し早速研究してみた。ビタ押し精度は、リールが1周約0.75秒で回っており、絵柄が21個あることから、0.75を21で割り約0.036秒となる。数字を見るとかなりシビアである。日常では見ない数字だ…。見えているとさういう問題ではなく、1周のタイミングが体に染み付いているかどうか非常に重要になってきそう。そこなると後は馴れしかない。

新顔

いつものように学校はそつちのけでP店へ。タコスロに着席。練習がてらに上段にBARビタ押しの方で打ち始める。BIG中もじっくり目押しし、ゆっくりではあるが無事に完走。その後のBIGもたまにミスもあつたが確実に精度は増していた。我ながら自分の成長に満足しつつと隣を見ると、中段

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振っている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

余談

今現在はこのタコスロのおかげでビタ押しができるようになったと思っています。ミスは99%ありません。しかしジャイアントパルサーのメタルカエル・キングカエルは難しかった！10回挑戦して成功は7回。これも99%にしたいのですが、お金がかかりますので…。無理です。我こそはメタル・キング100%という方はゲッツ!!までメールまたはお電話を!

ボーナス成立時にはスルーしてへる特徴のあるテーブルを採用することにより多くの中毒者を生み出した。



自負していた。しかしその自信も間もなくホールデビューを飾るあの名機にてことごとく打ち砕かれるのであった。

革命見2

96年も終わりに近づいたころ、長きに渡り沈黙していた瑞穂製作所よりコンドルに並ぶ伝説の名機が発売された。その名は「タコスロ」。タコがモチーフになっており、まさにタコのようにリールがずるずるスベる。スベつて小役がはずれば、リーチ目でなくてもチャンス。コンドル程BIG中の攻略効果は大きくなかったが、通常時にきつちり小役を狙うことにより、千円あたり2ゲームくらい余分に回つた。このたつた2ゲームが意外に大きく、1日打てば、金額にして1万5千円程の違いが出てくるのだ。そして今主流になっている左リールBAR絵柄の下に付いているチェリーの枠内目押し(番長・秘宝伝スカイラブ、その他多数の機種)、BARが枠下までスベればスイカかボーナスかチャンス。この打法(リール配列)の火付け役がこのタコスロなのではないだろうか。この時代の機種は、枠下までBARがスベり、尚かつスイカ否定ならBIG確定のともしびれる目だつたBARが枠下なのでBARも否定ということになり、BIG確定。

狼狽

俄然人気のコンドル。タコスロは新台にもかわらず、コンドルに圧倒されつばなしだった。若者もコンドルに流れ、新しい物好きそいうなおじさん、おばさんがタコスロを好んで打つていた。わたしもそのや年齢層の高い鳥の中に入り、タコスロを吟味していたのだ。コンドルの名残からか、わたしは上段に狙うのを得意としていたため、前述の打ち方ではなく、チェリーが上についているBARを上段に押すことに決めた。この打ち方のチャンスポイントは4コマスベリ時で、その時点でスイカかBIG確定だ。

いざ打ち始めると、しばらくして4コマスベリ発生！そしてスイカが並ぶ。まあこんなもんだらう。テンポよく打つていたため、4コマスベつてもスイカもBIGも揃わないときがたまにあつた。もちろんそれは目押しをミスっているだけなのだが…。そして気づく。1コマ遅く押し、プラムを取りこぼすこと…。1コマ早い分には問題ないが、4

タコスロ ボーナス抽選確率表

設定	BIG	REG	PAYOUT [解析値]	
			ハズシ不使用	ハズシ使用
1	1/273.07	1/468.11	101.74%	105.93%
2	1/268.59	1/468.11	102.50%	106.76%
3	1/248.25	1/468.11	106.31%	110.92%
4	1/240.94	1/468.11	107.84%	112.59%
5	1/240.94	1/409.60	108.97%	113.72%
6	1/240.94	1/364.09	110.44%	115.19%

ホールの楽屋裏 其の五

◆角台伝説?◆

角台は出る！って聞いたことはないでしょうか？これは昔からよくいわれていることです。しかも出入り口付近の角台、外から見える角台です。これは、出しているのを見せるために目立つ場所を出すだろうと皆が考えてきたからだと思います。そしてそう考えているからこそ、稼動を生み、結果としてボーナス回数が増え、出ているように思えるのです。はたして、実際のところはどうか？私の場合、どの台も均等に設定配分しているつもりです。しかし角台を意識してしまうのは事実です。大人気機種にはあまり角台には高設定を使わないような…。そこそこ人気のある機種、あまり人気のない機種には結構角台に5・6を使用しているかも…。3ヶ月間角台を設定6に据え置きっぱなしにしたこともあり。これは個人的な意見なので、他店の方が角台をどう扱うかという扱いは分りませんが、結局は答えになってはいませんが、「意識はする程度だと思います。設定というものは入れる人のクセが非常に大きいと思います。例えば、並べて高設定を入れるのが好きだったり、角から2番目が好きだったり。その人、その店のクセを知るといことは勝利への一番の近道かもしれません。私はクセが読まれないようにしているつもりなんです。が、どうしても右に書いた2つはよくやつてしまつたのです。